

\*\*\*\*\*制限事項通知統合版\*\*\*\*\*  
 \*  
 \* 本文書は、NECマイクロコンピュータ技術文書閲覧サービスの開始にあたり、\*  
 \* 既に通知させて戴いておりました制限事項を1つの文書にまとめたものです。\*  
 \* 2002年6月17日時点のすべての制限事項が掲載されています。\*  
 \*  
 \*\*\*\*\*

## NEC マイクロコンピュータ技術情報

<b>78K4シリーズ統合ディバग्ガ ID78K4-NS 使用制限事項の件</b>		発行番号	SBG-TT- 0137号	1/1
		発行日	平成 14年 6月 17日	
		発行元	日本電気株式会社 NECエレクトロニクス システム LSI ソリューション技術本部 マイクロコンピュータグループ	
関連資料	・ID78K シリーズ 統合ディバガ V2.30 以上 操作編 (資料番号 U15185JJ1V0UM00) ・ID78K4-NS 統合ディバग्ガ V2.31 使用上の留意点 (資料番号 SBG-TT-0065)	文書分類	① 使用制限事項 2 バージョン・アップ 3 ドキュメント修正 4 その他	

CP(K),O

### 1. 対象製品

ID78K4-NS                      V2.31

### 2. 制限事項一覧

制限事項の履歴とその詳細情報が含まれました制限事項一覧を別紙1に記載します。

以上

## ID78K4-NS の制限事項一覧

## 1. 製品履歴

No	仕様変更・追加 / 不具合事項	該当バージョン	
		V2.30	V2.31
		× : 該当する : 該当しない - : 対象外	
1	シンボル変換ダイアログで、正しくないエラーを出力する不具合。	×	×
2	逆アセンブル・ウィンドウの最大表示アドレスを表示しない不具合。	×	×
3	ウォッチ・ウィンドウでポインタのメンバー表示ができない不具合。	×	×
4	ソース・ウィンドウで、混合表示にした場合の不具合。	×	×
5	320文字以上の表示が途中で切れてしまう不具合。	×	×
6	ソース・ウィンドウに表示されない不具合。	×	
7	シンボル値と同じアドレスに対してブレークポイントを設定できない不具合。	×	×
8	ロードモジュールをもう一度ダウンロードすると、エラーになる不具合。	×	
9	左右矢印キーでスクロール操作すると、表示が乱れる不具合。	×	×
10	ソースファイル名に“-” “+”を含む場合、ブレークポイントが設定できない不具合。	×	×
11	ディバガが異常終了する不具合。	×	×
12	カバレッジ効率表示ダイアログの最下位行が表示されない不具合。	×	×
13	ソースウィンドウにソース内容が表示されない不具合。	×	
14	ソースサーチ・ダイアログのサーチファイル機能の不具合	×	×
15	関数の引数が配列のとき、Watch, Local での表示が不正になる不具合	×	×
16	ソース・テキスト・ウィンドウ混合表示時に編集ができない不具合。	×	×
17	ソース・テキスト・ウィンドウで同名ファイルが表示できない不具合。	×	×
18	SFR 領域は、疑似 RRM できない不具合。	×	×
19	メモリ検索が中断する不具合。	×	×
20	func#var 形式のシンボルをアドレスに変換できない不具合。	×	×
21	ターゲット・メモリが存在しなくてもターゲット・マッピングできる不具合。	×	
22	IAR 社製コンパイラ / アセンブラで生成した LMF が読めない不具合。	×	
23	実行が止まらなくなる不具合。	×	×
24	ウォッチ・ウィンドウの表示ファイル保存で不正なデータが保存される不具合。	×	
25	エミュレーション中に、メモリ・ウィンドウの表示が 0 になる不具合。	×	
26	ソフトウェア・ブレーク個所でエミュレーションが暴走する不具合。	×	×
27	ソフトウェア・ブレークで使用する CALLT アドレスが変更できない不具合。	×	
28	Bit シンボル SCL, SDA に対する操作命令をアセンブルするとエラーになる不具合。	×	×
29	レジスタに割り当てられた Long 変数を表示 / 変更することができない不具合。	×	
30	ウォッチ・ウィンドウの変数表示が有効にならない場合がある不具合。	-	×

## 2 . 使用制限事項の詳細

No . 1 シンボル変換ダイアログで、正しくないエラーを出力する不具合。

【内 容】シンボル変換ダイアログで SFR ビットを指定した場合、エラーとなりますが、間違ったエラーメッセージ " F002(f), 不正な演算式です " を出力してしまいます。

【回避策】SFR ビットのアドレスは、マップファイルでご確認ください。

【改善策】制限事項とします。

No . 2 逆アセンブル・ウィンドウの最大表示アドレスを表示しない不具合。

【内 容】逆アセンブル・ウィンドウの最大表示アドレス「0xFFFF」を表示しません。

【回避策】回避策はありませんが、「0xFFFF」は、SFR 領域なので実害はありません。

【改善策】制限事項とします。

No . 3 ウォッチ・ウィンドウでポインタのメンバー表示ができない不具合。

【内 容】ウォッチ・ウィンドウで、構造体、配列等のポインタのメンバーを表示した状態でプロジェクト・ファイルにセーブしても、プロジェクトファイルロード時にはメンバーを表示した状態では表示しません。また、そのときの各メンバー個別の表示進数もセーブしていません。

【回避策】ありません。

【改善策】制限事項とします。

No . 4 ソース・ウィンドウで、混合表示にした場合の不具合。

【内 容】ソース・ウィンドウで、混合表示にした場合、下向き（ファイル末方向）にスクロールを行うと、余分なスクロールが発生し、画面表示される行番号が連続しないことがあります。また、ソースの最後尾を表示している場合、混合表示では、スクロールを使用しないと最後まで表示することができません。

【回避策】ありません。

【改善策】制限事項とします。

No . 5 320 文字以上の表示が途中で切れてしまう不具合。

【内 容】ソース・ウィンドウ、逆アセンブル・ウィンドウ、ウォッチ系ウィンドウで一行に表示できる文字数は320文字までとなっています。そのため 320文字以上の表示は途中で切れてしまいます。

【回避策】ありません。

【改善策】制限事項とします。

No . 6 ソース・ウィンドウに表示されない不具合。

【内 容】アセンブラ・ソース・ファイルの先頭に、漢字など 2 バイトコード文字で始まるコメントを書いているソース・ファイルは、ディバッガで表示できません。

（この現象は 2 バイトコードに起因するものなので、日本語版 Windows 上でのみで発生します。）

回避策】アセンブラ・ソース・ファイルの先頭行のコメントは、2 バイトコードから始まらないように、スペース・コードなど 1 バイトコードを挿入してください。

【改善策】V2.31 で修正しました。

No . 7 シンボル値と同じアドレスに対してブレークポイントを設定できない不具合。

【内 容】あるアセンブラ・ソース・ファイルでのみ有効な EQU シンボル定義を行った場合、そのシンボル値と同じアドレスに対してブレークを設定できません。

【回避策】EQU シンボルをヘッダ・ファイルに定義するなど、すべてのアセンブラ・ソース・ファイルから参照できるようにしてください。

【改善策】制限事項とします。

No. 8 ロードモジュールをもう一度ダウンロードすると、エラーになる不具合。

【内 容】プロジェクト・ファイルを読み込んだ直後に、[ファイル]メニュー下方のファイル・リストから、プロジェクト・ファイルで読み込んだロードモジュールをもう一度ダウンロードすると、エラーになります。

【回避策】プロジェクト・ファイルの読み込みでロードモジュールはダウンロード済みです。もう一度読み直したい時は、[ファイル]-[ダウンロード]メニューを使うか、同じプロジェクト・ファイルを読み直してください。

【改善策】V2.31 で修正しました。

No. 9 左右矢印キーでスクロール操作すると、表示が乱れる不具合。

【内 容】SFRウィンドウやレジスタ・ウィンドウなどの「データ値表示 / 設定エリア」の横幅が狭いとき、左右矢印キーでスクロール操作すると、「データ値表示 / 設定エリア」の表示が乱れるときがあります。

【回避策】ウィンドウの横幅を広げて操作してください。

【改善策】制限事項とします。

No. 10 ソースファイル名に“-” “+”を含む場合、ブレークポイントが設定できない不具合。

【内 容】ソース・ファイルに“-”(マイナス)または“+”(プラス)を含むファイル名が存在する場合、ディバッガ上でブレークポイントを設定することができません。

【回避策】ソースファイル名を、“-” “+”を含まないものに変更してください。

【改善策】制限事項とします。

No. 11 ディバガが異常終了する不具合。

【内 容】ディバガの仕様では、ダウンロードするロードモジュールと同名で、拡張子が“.tcl”であるスクリプト・ファイルが存在した場合、ダウンロード直前に、そのスクリプトを自動実行します。スクリプト内で、同ロードモジュールをダウンロードする記述を行っていると、ダウンロードを無限に繰り返してしまい、ディバガが異常終了してしまいます。

【回避策】ダウンロード直前に自動実行しないスクリプト・ファイルは、ロードモジュールのファイル名と同じにならないように変更してください。また、ダウンロード直前に自動実行したいスクリプト・ファイルには、ロードモジュールをダウンロードする命令は記述しないでください。

【改善策】制限事項とします。

No. 12 カバレッジ効率表示ダイアログの最下位行が表示されない不具合。

【内 容】カバレッジ効率表示ダイアログの最下位行が表示されません。Survey List に 21 文字以上のアイテムを含め、計 12 アイテム以上追加すると、最下位行が水平スクロールバーに隠れて表示されません。(この現象は、英語版 Windows 使用の場合のみ発生します。)

【回避策】リストの最後に 1 アイテム以上のダミーリストを追加してください。

【改善策】制限事項とします。

No. 13 ソース・ウィンドウにソース内容が表示されない不具合。

【内 容】2 バイト文字で終わる名前のついたフォルダに入っているソース・ファイルが、ソース・ウィンドウに表示されない場合があります。

(ソース内容が表示されていないウィンドウが表示されます)

【回避策】2 バイト文字で終わる名前のついたフォルダを使用しないようにしてください。

【改善策】V2.31 で修正しました。

- No. 14 ソースサーチ・ダイアログのサーチファイル機能の不具合。  
【内容】ソースサーチ・ダイアログ内のサーチファイル機能は使えません。  
【回避策】ありません。  
【改善策】制限事項とします。
- No. 15 関数の引数が配列のとき、Watch, Local ウィンドウで表示が不正になる不具合。  
【内容】配列を関数の引数として宣言したとき、その配列の内容を Watchウィンドウ、Local ウィンドウで参照しようとする、異なったメモリ位置の内容を表示してしまいます。  
【回避策】関数の引数として配列変数を受け取る(参照する)場合には、引数に配列宣言をせずにポインタ宣言を行って、ポインタアクセスを行うようにしてください。  
【改善策】制限事項とします。
- No. 16 ソース・テキスト・ウィンドウ混合表示時に編集ができない不具合。  
【内容】ソース・テキスト・ウィンドウを混合表示状態にしたとき、逆アセンブル部の編集を行うことはできません  
【回避策】アセンブル・ウィンドウで編集してください。  
【改善策】制限事項とします。
- No. 17 ソース・テキスト・ウィンドウで同名ファイルが表示できない不具合。  
【内容】ソース・テキスト・ウィンドウで開くソースファイルは、  
[オプション]-[デバッグオプション]の「ソース・パス」に設定されているフォルダ内のソース・ファイルを優先して開きます。
- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| C:¥TEST¥TEST.C   | C:¥TEST¥TEST.LMF のソースファイル |
| C:¥TEST¥TEST.LMF |                           |
| D:¥TEST¥TEST.C   | D:¥TEST¥TEST.LMF のソースファイル |
| D:¥TEST¥TEST.LMF |                           |
- [オプション]-[デバッグオプション]の「ソース・パス」は、C:¥TEST¥を設定
- [ファイル]-[ダウンロード]で、D:¥TEST¥TEST.LMF を開いても、表示されるソースファイルは、C:¥TEST¥TEST.C となります。
- 【回避策】ありません。  
【改善策】制限事項とします。
- No. 18 SFR 領域は、疑似 RRM できない不具合。  
【内容】SFR 領域は、疑似 RRM(リアルタイム・RAM・モニタ機能)できません。  
【回避策】ありません。  
【改善策】制限事項とします。
- No. 19 メモリ検索が中断する不具合。  
【内容】メモリ検索で、検索対象アドレスがノンマップ領域や SFR 領域に掛かったとき、メモリ検索が中断されます。  
【回避策】検索範囲にノンマップ領域や SFR 領域を含めないようにしてください。  
【改善策】制限事項とします。

- No . 2 0 func#var 形式のシンボル(func:関数名、var:変数名)をアドレスに変換できない不具合。  
【内 容】func#var 形式のシンボル ( func:関数名、 var:変数名 ) をアドレスに変換することができません。  
【回避策】 var (変数名)のみで変換してください。関数内 static 変数などで、同名の変数名が他に存在するときは、PC が当該関数内に存在しているときに 変換してください。  
【改善策】制限事項とします。
- No . 2 1 ターゲット・メモリが存在しなくてもターゲット・マッピングできる不具合。  
【内 容】実際にターゲット・メモリが存在しない(ターゲットの電源が OFF 含む)場合でも、コンフィグレーションダイアログでターゲット・マッピングが設定できます。  
【回避策】ありません。  
【改善策】V2.31 で修正しました。
- No . 2 2 IAR 社製コンパイラ / アセンブラで生成した LMF が読めない不具合。  
【内 容】IAR 社製のコンパイラ、アセンブラで生成した、LMF ファイルが読み込めないときがあります。  
【回避策】ありません。  
【改善策】V2.31 で修正しました。
- No . 2 3 実行が止まらなくなる不具合。  
【内 容】自動継続実行中に[実行]-[スローモーション]を選択すると、[実行]-[ストップ]を選択しても(停止ボタンを押しても)プログラムが停止しません。  
【回避策】ありません。  
【改善策】制限事項とします。
- No . 2 4 ウォッチ・ウィンドウの表示ファイル保存で不正なデータが保存される不具合。  
【内 容】ウォッチ・ウィンドウの表示ファイルを保存したとき、画面に表示されていなかった変数の値が正しく保存されないことがあります。  
【回避策】表示ファイル保存の前に、ウォッチ・ウィンドウをスクロールして、全ての変数の値を一度表示させてください。  
【改善策】V2.31 で修正しました。
- No . 2 5 エミュレーション中に、メモリ・ウィンドウの表示が 0 になる不具合。  
【内 容】周辺 RAM 領域を表示中のメモリ・ウィンドウの表示が、エミュレーション中に " 00 " で表示されてしまいます。(本来は、アスタリスク ( \*\* ) 表示される仕様です)  
【回避策】ありません。  
【改善策】V2.31 で修正しました。
- No . 2 6 ソフトウェア・ブレーク個所でエミュレーションが暴走する不具合。  
【内 容】78K/ CPU 動作を高速フェッチ・モードで動作させているとき ( MM レジスタの最上位 Bit をセット ) 設定したソフトウェア・ブレークがブレーク動作を行わず、不正な CALLT 命令を実行してエミュレーション・プログラムが暴走してしまいます。なお、通常フェッチ・モードで動作させているときは、ソフトウェア・ブレークは使用可能です。  
【回避策】高速フェッチ・モードで動作させているとき、回避策はありません。ハードウェア・ブレークを使用してください。  
【改善策】制限事項とします。

- No. 27 ソフトウェア・ブレークで使用する CALLT アドレスが変更できない不具合。  
【内容】78K/IV シリーズの拡張オプション・ダイアログで設定する、「ソフトウェア・ブレークで使用する CALLT アドレス」の入力で指定した CALLT アドレスが使用されません。常に 0x40 番地を使用してしまいます。  
【回避策】ありません。ソフトウェア・ブレークを使用する際には、0x40 番地をユーザ・プログラムで使用しないようにしてください。  
【改善策】V2.31 で修正しました。
- No. 28 Bit シンボル SCL, SDA に対する操作命令をアセンブルするとエラーになる不具合。  
【内容】Bit シンボル SCL, SDA に対する操作命令(ex. set1 SCL)をアセンブル・ウィンドウ上でアセンブルするとエラーになります。  
【回避策】P3.2, P3.3 と記述してください。  
【改善策】制限事項とします。
- No. 29 レジスタに割り当てられた Long 変数を表示 / 変更することができない不具合。  
【内容】レジスタに割り当てられた Long 変数を、ウォッチウィンドウ、ローカル変数ウィンドウで表示 / 変更することができません。表示はすべて「？」表示になります。  
【回避策】ありません。  
【改善策】V2.31 で修正しました。
- No. 30 ウォッチ・ウィンドウの変数表示が有効にならない場合がある不具合。  
【内容】ローカル変数をウォッチ・ウィンドウに登録して、登録した変数の有効部分(スコープ内)を実行しても、変数がグレー表示のまま有効表示(黒表示)にならないことがあります。また、プロジェクト・ファイルを読み込んだ直後にウォッチ・ウィンドウのサイズを超える数の変数が登録されている場合には、スクロールしても変数がグレー表示のまま有効表示(黒表示)にならないことがあります。  
【回避策】変数部分を選択するなど、変数を再描画する操作をおこなうと正常に表示するようになります。変数がグレー表示であっても、変数値に関しては問題なく表示します。  
【改善策】制限事項とします。